

## 視覚優位？聴覚優位？

私たちが世の中の事象を判断したり解釈したりする過程は、実は人それぞれ違います。同じ世界を前にしていても、その認知の仕方が人それぞれ違います。

### 「視覚優位」の特徴



- 空間認知が得意、何かを図で認知するのが得意
- 人の顔を覚えるのが得意
- 絵、写真、グラフ、動画など視覚的に示された物を理解しやすい
- ざっと見ただけで、全体の関係性を理解できる
- 漢字を部首で覚える、漢字を似た字と間違えて書いてしまう
- 頭のなかで、言語ではなく映像を使って思考する(映像思考)
- 言葉で伝えるのが苦手

### 「聴覚優位」の特徴



- 口頭指示の理解が得意
- 音楽を聴いているとすぐに歌詞を覚える
- 時間を追って、段階的に理解するのが得意
- 全体よりも細かいことに興味を示す
- 顔と名前が一致しない
- 人の顔を認知できないため、コミュニケーションが苦手
- 読みが同じ漢字と間違える
- BGMを聴いてしまい集中できない 音楽を聴きながら勉強できない

「赤ちゃんが生まれたときを想像してみてください」……………想像しましたか？

「おぎゃー」という声を思い浮かべたら**聴覚優位**

「泣いている赤ちゃんの顔」「助産院が赤ちゃんを取り上げている姿」などのイメージを想像するなら**視覚優位**かもしれないです…

多くの方は、視覚と聴覚両方がある程度バランスよく使っていますが、利き手があるようにどちらかに優位性を持っています。人間誰も個性を持っているように、視覚優位もいわば個性の一つであり、誰もが有している可能性です。極端な視覚優位、極端な聴覚優位の人もいて、バランスが偏っている人は生き辛さを感じています。その特性を無視するのは、左利きの人に「右手で書きなさい。」と言っているようなものです。

例えば、授業や講演会などで視覚優位の方は関係ない視覚情報まで拾いやすい、聴覚優位の方は関係ない音声情報まで拾いやすいという傾向があります。つまり、「少ない情報で理解させる」ことが非常に大切です。さらに、図鑑や野球名鑑が好きなのは、写真やイラスト、言葉の説明、内容が端的という特徴があり、情報処理が簡単だからです。子どもが図鑑を夢中で読むのは、純粋に「わかりやすい」からです。

その特性に合ったサポートをすることで子どもの世界は変わります。同じ世界でも目の前の子どもは違った世界が見えている、そう思うことが子どもの理解に近づく1歩ではないでしょうか。



「天才と発達障害 映像思考のガウディと相貌失認のルイス・キャロル」  
講談社 岡南(著)

人って百人いれば、経験や知識や脳の構造によって、同じ景色を見ても、見ている部分や感じるものが全く違います。その人によって異なる認知の世界を視覚優位・聴覚優位という切り口で考察している本です。